



### 敬老の日

「老いを楽しむ①」

まだ片付けていない へのご褒美で、一日一軒下の風鈴が秋を告げ 日を楽しく生きようとする。秋の食欲、スポー 思う。

私も89歳のターシャが「今が一番いい時よ」という言葉に勇気づけられる。

若い頃のようにあちこちを歩き廻るのではなく、「黄昏の秋」ではなく、「実りの秋」にした。この旅が今年の敬老の日のプレゼントと私が決めているのだから、子供たちにとっては「やれやれ」という存在だろう。誰にでも出来る「今が一番いい時よ」とは、そう願うことから始まるものだと言え、これが「老いては子に従え」と言えるかどうかは別として...

寂しさを感じる。広辞苑には「物事が終わりに近づき、衰えの見え方」とあるようだ。人間の老いをさしているような言葉である。体力が衰え始め、人生の終わりを仄々する言葉ではあるが、私は最近、そのように消極的にとらえず、「老いは神から与えられた楽しみもの」と捉える。今まで働き続けたことに楽しく生きるか感

私の卓上机には今までの旅の中で一番好きな写真を張っている。もう20年以上前に撮ったものだが、妻も私もこの写真が一番輝いているようで好きだ。インドネシアのロンボク島へのクルーズのときに撮ったものだが、背景には太平洋に沈みゆく太陽も映っている。もうあれから20年以上過ぎたが、今もこの写真と同じように輝いて楽しむ旅に出かけたいと思っている。体力の衰えた部分は子供たちに補ってもらい、今はまだ訪ねたことのないラオスのかつての首都があったルアンパバーンの旅を計画

中である。こちを歩き廻るのではなく、同じホテルに連泊し、かつてフランス領だったラオスをゆったりと味わいたい。ガイドは大学で教えている長女、何度も研修でラオスを訪れており、多少出来の悪い生徒として一緒にいたい。この夏休みは娘はイギリスに生徒を連れて行った。私はイギリスに行つた。私はもう3回行ったのにはもう3回行ったの

知と思うが、ターシャは園芸家であり、絵本作家などを通して、アメリカだけでなく世界中の人々に老年を如何に楽しく生きるか感

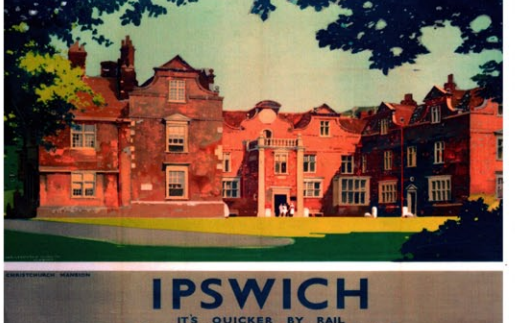
この夏休みは娘はイギリスに生徒を連れて行った。私はイギリスに行つた。私はもう3回行ったのにはもう3回行ったの

だと言え、これが「老いては子に従え」と言えるかどうかは別として...



ターシャの「今がいちばんいい時よ」の本の表紙

ターシャの「今がいちばんいい時よ」の本の表紙



娘から届いたロンドン北東部にあるイプスウィッチの絵葉書



クルーズの旅を楽しんだ思い出の写真